

《皆さまから頂いたご質問への回答》

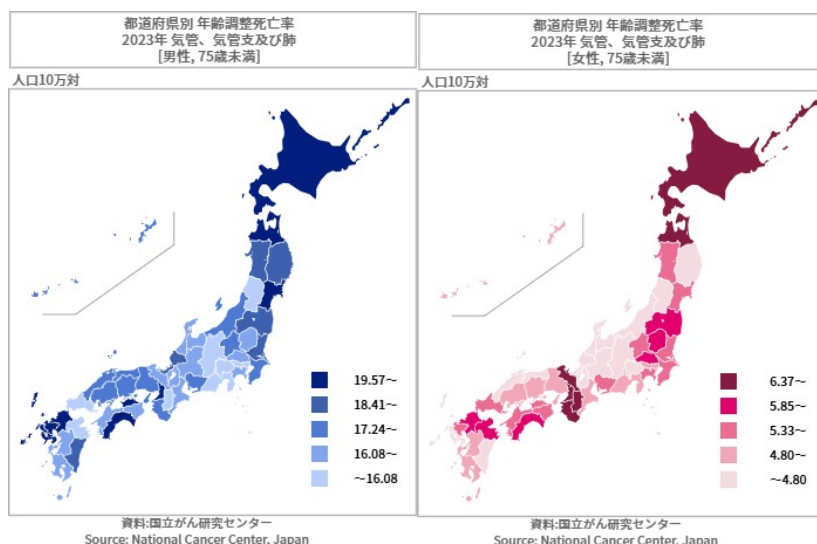
○抗癌剤はおおよそ何歳まで可能ですか？

回答：抗がん剤にもたくさんの種類があり、副作用も様々ですので、用いる薬剤と対象となる患者さんの全身状態のバランスで治療が選択されます。既往症やお元気さによって、若くても治療が難しいと判断する場合がありますが、講演の中で説明したパフォーマンスステータスをもとに治療を決定することが一般的です。

○旭川は喫煙率が高いのですが、空気が悪くてそれと肺ガン数は関係していますか？

回答：一般的に、がんの発生する仕組みにはさまざまなものがあり、特定の原因が明らかでないことも多くあります。タバコ以外の要因として、職業や環境による要因〔石綿(アスベスト)、ラドン、ヒ素、クロム、PM2.5 など〕がリスクを高めると考えられています。

なお、旭川市の統計(旭川市ホームページ)で旭川市の肺がん死亡数は見ることができます。がん情報サービスではがんに関する様々な情報が公開されていますが、北海道の肺がん死亡率が高いことが明らかです。



○身体の負担の少ない保険外の治療は旭川でも行っていますか？費用はどのくらい？陽子線とか重粒子線治療も肺ガンにできますか？

回答：身体の負担が少ないがん治療が何を指しているのか不明ですが、粒子線治療(陽子線治療、重粒子線治療)の先進医療についてご回答いたします。

粒子線治療は道内で3施設(北海道大学病院、札幌禎心会病院、札幌孝仁会記念病院)で実施されています。肺がんに対して保険診療としては早期肺がんでは手術による根治治療が困難な場合に限り認められており、多くは先進医療として行われています。どのような照射方法が適しているかは、病気の場所や広がり、患者さんの状態によっても異なりますので、主治医を介して専門施設にお問合せすることができます。

○肺ガン(ステージ I A₂)術後 1 年半で再発。タグリッソ飲んでいます。耐性後すぐにパネル検査してくれるのでしょうか。その時は何を提出しますか(がん細胞をとる？血液？)

回答:がんの遺伝子検査は肺がんの診断時に行うものと、標準治療が終了時(あるいは終了見込み)に行うものがあります。がん遺伝子パネル検査は後者になりますが、検査のタイミングなどについては主治医にご相談ください。

がん遺伝子パネル検査は、手術後で比較的新しいがんの組織がある場合は、手術検体(組織)を検査に提出しますが、古かったり、診断時の小さな組織で検査が難しい場合は、新たな組織を採取または血液で検査(リキッド検査)するかの検討が必要になります。

○分子標的薬の副作用か、身体の痛み(特に背部痛)ありますが先生にはわかってもらえませんか。他の辛さも少し軽く思われているようです。

回答:主治医に辛さを理解してもらえていないと感じるのは辛いことです。是非、外来や病棟の看護師、がん相談支援センターなどにご相談ください。痛み止めや生活の工夫、医師への伝え方など何らかのアドバイスがもらえるかもしれません。

○健康診断で X 線検査を受けますが、CT をしてみなければ早期で見つからないとのことですが、X 線より CT 検査をスタンダードにすることはできないのでしょうか。

回答:放射線を用いた医療行為による被ばくを「医療被ばく」といいます。1 回の検査で被ばくする線量は胸部 X 線撮影で 0.02~0.07 シーベルトに対して、CT 撮影は 5~30 ミリシーベルトです。被ばくによる健康被害の問題と(国の)経済的な問題もあり通常健康診断では難しいようです。

旭川厚生病院の人間ドックでは、オプション検査として肺ドック(ヘリカル CT 検査、喀痰細胞診)を受けることができます。

○タバコを吸わなくても肺ガンになるのは何が主な原因なのでしょう？タバコを吸わない女性に多いときいたことがあります。

回答:タバコを吸わない人でも、周囲のタバコの煙を吸うこと(受動喫煙)によって発症するリスクが高くなることもわかっています。タバコ以外の要因として、職業や環境による要因[石綿(アスベスト)、ラドン、ヒ素、クロム、PM2.5 など]や慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎、肺がんの家族歴や既往歴などがリスクを高めると考えられています。

他、個人的な病状に関するご質問がいくつか寄せられておりましたが、詳しいご病状がわからないままお答えすることは控えさせていただきます。

是非、主治医や看護師、がん相談支援センター等へご相談ください。